

小林よしのり氏、皇位継承問題に提言「皇室存続のためにはただちに皇室典範を改正し、**愛子皇太子殿下の誕生**を実現しなければならない」

6/26(木) 7:15 配信 NEWS **ポストセブン**



読売新聞が一面で掲載した提言「**皇統の安定 現実策を**」（5月15日付朝刊）は、皇室典範の規定を改める女性・女系天皇の容認に踏み込み、大きな注目を集めた。だが、政界では皇位継承に関する与野党協議を担った自民党・麻生太郎最高顧問と立憲民主党の野田佳彦代表の意見が対立、今国会でのとりまとめは見送られた。実現するなら今しかない——「愛子天皇」の誕生を願う漫画家の小林よしのり氏が緊急提言する。

* * * 自民党寄りだと思っていた読売新聞が、「皇統存続を最優先に現実策を（女性天皇、将来的な女系天皇の可能性を排除せず議論を）」と提言したのは画期的だった。これまで「議論は静謐な環境で」など、「皇室問題を語る資格があるのは政治家だけだ」と言わんばかりの“愚民政策”をとってきたが、それがついに突破された。

天皇の位が「万世一系」「男系」で例外なく継承されてきたと主張するのは、わしは完全なカルト思想だと思う。126代を遡れば、最初に「天皇」を名乗った推古天皇や天皇号を法的に定めた持統天皇など、**女帝は何人も存在**した。

「日本人の脳髓にまで達した**男尊女卑の風潮**」を理由に皇位継承を男系男子に限るとした明治の皇室典範が制定されるまで、「女帝の子も男帝の子と区別なく皇位継承者になれる」と明記した**古代の律令（継嗣令）が1200年近く有効**だった。つまり**男女双系こそが皇室の伝統**なのである。男系を“伝統”とする人は、いまだ男尊女卑の因習から抜け出せず、明治以降だけが伝統だというカルト思想の持ち主だ。

そもそも現在の**皇太子不在は異常事態**だ（秋篠宮殿下は皇位継承1位を表わす皇嗣）。わしが『愛子天皇論』で書いてきたように、**皇室存続のためにはただちに皇室典範を改正し、愛子皇太子殿下の誕生を実現しなければならない**。そうなければ、未来の皇室の安泰は今の倍の確率になる。

大阪・関西万博の訪問時、各所で歓声があがったように、**皇女として特別なオーラを放つ愛子さまのカリスマ性は人並み外れ**ている。気品に満ちた振る舞い、発するお言葉を見聞きするほど、**愛子さまが天皇にならなければ、日本は終わる**だろうと思う。

少子化が進み経済的にも縮小する日本で、「**女性は天皇になれない。日本国の象徴にもなれない**」と“ムラの掟”に縛られていたら、活力が生まれるわけがないからだ。

「女性活躍」を言いながら子育てや介護の負担を押し付けるような因習が残る日本で、愛子皇太子が誕生すればどうなるか。「これまでと違う未来がある」と国民が考え始め、**社会に活気**が生まれる。各地を巡幸されたり、皇室外交される愛子天皇を目にした日本人は、その姿に誇りを持つだろう。

男系固執派は、天皇や皇族を個人として敬うのではなく、“血の器”、“Y染色体”が尊いのだと信じる向きもある。**その考えをカルトと言わずして、なんと呼べばいいのか。**

【プロフィール】 小林よしのり（こばやし・よしのり）／1953年生まれ、福岡県出身。漫画家。『ゴーマニズム宣言 SPECIAL 愛子天皇論』（扶桑社）など著書多数。 ※週刊ポスト 2025年6月27日・7月4日号